

食料生物学コースの例示

徳島大学大学院研究指導計画書

令和 年 月 日

創成科学 研究科 博士前期 課程 生物資源学 専攻 食料生物学 コース

学生番号 _____ 学生氏名 _____

主指導教員名 _____

副指導教員名 _____

アドバイザー教員名 _____

本学生に関して、標準修了年限(2年)による修了(修了予定年月日:令和〇年〇月)を目指し、研究遂行及び学位論文の作成にかかる研究指導を行う。

本学生に対する直接の研究指導は副指導教員が担当し、主指導教員は全体を統括する。

本学生の研究計画は以下のように設定する。ただし、各項目の実施時期は研究進捗状況により適宜調節する。

1年次前期

研究内容にかかる基礎的な学習

研究テーマの決定

実験計画の立案

研究室ゼミ、文献輪読(原則週1回)

研究科共通科目、教育クラスター科目、所属基盤コース専門科目(前期) 履修

生物資源学研究(通年) 履修

食料生物学特別講義(通年) 履修

食料生物学特別実習(通年) 履修

食料生物学特別演習(通年) 履修

1年次後期

研究実施(実験実施等によるデータ蓄積)

中間発表(〇月頃開催)

研究室ゼミ、文献輪読(原則週1回)

研究科共通科目、教育クラスター科目、所属基盤コース専門科目(後期) 履修

生物資源学研究(通年) 履修

食料生物学特別講義(通年) 履修

食料生物学特別実習(通年) 履修

食料生物学特別演習(通年) 履修

2年次前期

研究実施(実験実施等によるデータ蓄積)

学会発表等

研究室ゼミ、文献輪読(原則週1回)

食料生物学特別研究(通年) 履修

2年次後期

研究実施(実験実施等によるデータ蓄積)

学会発表等

研究室ゼミ、文献輪読(原則週1回)

食料生物科学特別研究(通年)履修

学位論文作成

学位論文発表会(公聴会)

研究科共通科目、教育クラスター科目、所属基盤コース専門科目の履修について

これらの科目は、「農業経済学特論」を除き、1年次のうちに履修するよう指導する。また、これら科目群を履修することで、まず、様々な分野の課題を探求し、それを解決するために必要な能力を認識させることで自発的な学修を促す。

特別実習・特別講義・特別演習・特別研究の履修について

これらの科目を履修することで、それぞれの特定分野に関する理解を深化させるとともに、当該分野における問題を分析して解決させることを通して、身に付けた分析力や解決能力を向上させる。

また、特別演習・特別研究を通じて、プレゼンテーション能力を錬成し、実践的なスキルとして身に付けさせる。

研究室ゼミについて

学生の研究指導にあたっては、定期的に(基本的に毎週)研究室のゼミを開催し、論文輪読や研究の進捗状況に関する発表会において、研究分野や関連する分野に関する知識の習得を促すとともに、研究遂行上の助言、研究の進め方についての助言、指導等を行う。

また、日本語と英語による論理的表現力とコミュニケーション能力の向上を目指した指導を実施し、国際化に対応できる能力を身に付けさせる。

中間発表について

1年次後期に開催予定の中間発表において、その時点までの研究内容のまとめを発表、指導教員以外の教員からの助言を参考に研究内容の再点検、振り返りを促す。

学会発表について

まとめた研究成果については、原則として、学外の学会等で発表することとし、幅広い研究者からの意見を取り入れることで、研究の完成度を高める方法について指導する。

学位論文について

2年次後期には、全体の研究を学位論文としてまとめるため、学位論文の記載内容、作成方法について指導する。

研究倫理教育について

研究遂行にあたっては、研究成果の客観性、再現性等が担保できるように、実験ノートの作成、実験データの保存などの適正性を確認するとともに、適正でない場合には改善を促す指導を行う。また、普遍的な研究倫理観を醸成するために APRIN の e-learning 講座の受講等を指導する。

ティーチング・アシスタント(T・A)について

指導教員の担当授業の T・A への参加を推奨し、自己の研究遂行だけでなく、学生の指導を通じて役割や立場に応じたコミュニケーション能力やリーダーシップ能力の醸成を促す。